

江刺 寄席

第7回

番組

開口一番

落語：春風亭昇々

講談：宝井琴柑

落語：林家木久蔵

《仲入り》

太神楽：翁家和助

落語：立川志らく

立川志らく

林家木久蔵



春風亭昇々



宝井琴柑



翁家和助

平成24年

10月7日 日

開場：13時
開演：13時30分

江刺体育文化会館 ささらホール

主催：(株)エイティーシー
協力：NPO法人いわてルネッサンス・アカデミア
後援：奥州市・奥州商工会議所
岩手江刺農業協同組合

満員の際は入場をお断りする場合がございます

お問い合わせ (株)エイティーシー ▶ 岩手県奥州市江刺区愛宕字谷地11-1 電話 0197-31-1322 URL <http://www.atc-net.co.jp/>
江刺体育文化会館 ささらホール ▶ 岩手県奥州市江刺区大通り1-59 電話&FAX 0197-31-1607

入場無料

但し、入場整理券をお求め下さい。

整理券配布所 江刺体育文化会館 ささらホール・奥州商工会議所江刺支所・ATC

小学生未満の方は入場できません。但し、無料託児所を用意しますので一週間前までにご予約の上ご利用下さい。



「江刺寄席」七回目となりました。前回から席亭の私がプロデューサーも兼ねておりますが、何分にも素人なもので、取り留めのない会とならぬように指針のようなものを定めました。第十回までをシーズン2とし、その間出演者の重複をなくすことと、毎回女流藝人を一組加えるということです。ただし、一回から五回までのシーズン1に出演された方の再演はありとします。今回もそれに従い番組を作りました。

まずは春風亭昇々さんです。ルックスのよさで話題になることの多い昇々さんですが、昇太師匠譲りのナンセンスなギャグをちりばめた自作の新作落語に積極的に取り組んでいます。

続いては「江刺寄席」初お目見えとなる講談です。読むは宝井琴柑さん。私は前座の時に聞き、彼女の素直な読み口に好感を持ちました。二ツ目になったところから人気も急上昇しています。

仲トリは林家木久蔵師匠です。テレビでお馴染みですが、寄席では古典落語を演じています。果たしてサゲまで持つて行けるの、と不安に思われたならば、お客様はすでに木

久蔵師匠の手の内にいます。

膝代りは太神楽で、翁家和助さんの登場です。和助さんの曲藝には、私はジャグリングなどの大道藝も参考にしているのではと思うのですが、スピードと意外性があります。


トリは立川志らく師匠です。私が何か述べるよりは、師匠の著作「落語進化論」からの引用でその落語観を紹介いたします。

古典落語の名人の基準は「江戸の風を吹かせられるか」にあると私は思っている。個人的志向ではなく、本質論として語っているつもりだ。私が聴いた名人の落語には例外なく江戸の風が吹いていた。落語の面白さは笑いの数ではなく、いかに江戸を感じさせてくれるかではないだろうか。

十月には江刺に「江戸の風」が吹くことでしょう。皆様のご来場をお待ちしております。

「江刺寄席」席亭 **川島一義**


出演者プロフィール



たてかわ しろ
立川 志らく
(本名：新聞 一弘)

昭和38年8月16日生まれ
東京都世田谷区出身
落語立川流所属


昭和60年10月 立川談志に入門
昭和63年3月 二ツ目に昇進
平成7年12月 真打昇進
現在弟子13人をかかえる大所帯



はやしや きくぞう
林家 木久蔵
(本名：豊田 宏寿)

昭和50年9月29日生まれ
東京都世田谷区出身
落語協会所属

平成7年10月 初代林家木久蔵（現木久扇）に入門
前座名きくお
平成11年9月 二ツ目に昇進
平成19年9月 真打昇進
二代目林家木久蔵を襲名



しゅんぷうてい しょうしょう
春風亭 昇々
(本名：柴田 裕太)

昭和59年11月26日生まれ
千葉県松戸市出身
落語芸術協会所属


平成19年3月 春風亭昇太に入門
平成23年4月 二ツ目に昇進



たからい きんかん
宝井 琴柑
(本名：綿貫 麦)

神奈川県横浜市出身
講談協会所属

平成18年4月 宝井琴星に入門
平成22年6月 二ツ目に昇進



おきなや わすけ
翁家 和助
(本名：松木 亮)

昭和52年6月3日生まれ
東京都西東京市出身
落語協会所属

平成7年 国立劇場養成課太神楽研修に入学
第一期太神楽研修生となる
平成10年 太神楽研修を卒業
翁家和楽に入門

